
暗い部屋

涼吹 翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗い部屋

【Nコード】

N7449H

【作者名】

涼吹 翼

【あらすじ】

どこだかわからない暗い部屋。そこではただ、待つことしかできなかった。

この部屋に入ってどれくらいになるだろうか……

ここまでくるのに狭い箱に入れられ、せまいトラックに積み込まれ、今、この部屋の中にいる。

時間もわからない。何秒何分もしくは何時間？

ずいぶん前にこの部屋の隣にいたやつが部屋から出されたそうだ。

しかし、部屋から出たやつは体の中のものを取り出され、そのまま捨てられてしまうという話だ。

誰かが外でそういつていた。

「誰か助けてくれ！」

そう叫びたくても声は出ない。

ただ、いつか来るであろうこの暗い部屋から出る時を待つだけ……
また時が過ぎる。

どこかで誰かが部屋から出されたようだ。だが助けたくても私には
どうすることもできない。

ただ、待つだけ……。

その時を待つ間私はいろいろなことを考えていた。

いつまで待たなければいけないのか？

助かる見込みはないのか？この先私がどうなるのか？考えても考え
ても答えが出ない。

思い返せば私は何をしてきたのだろう。いや、私は本当に何もして
いなかった。

だったらここにすることが私の存在意義なのではないだろうか？

ついに私にもその時が来たようだ。

もう恐れはしない。

……さようなら。

「やっと見つけたよー」

「本当?どこどこ?」

子供たちが楽しそうに話している。

「こっちだよー」

「ああ、本当だ」

「ちょうど飲みたかったんだよねこのジュース」

子供は自動販売機からジュースを買い、中のものを飲み干し、あとに残った缶はゴミ箱に……。

（後書き）

いかがでしたでしょうか。

今回は「人の」ではなく

「物の」視点から書いてみました。

身近な日常にも物語はあるものです。

あなたも一度探してみてはいかがでしょうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7449h/>

暗い部屋

2010年11月28日06時04分発行